

【投稿】「防水」に万全を期し原発建設へ再発進を

会員 高橋憲一

電気管理技術者として 20 年、「地震にも津波にも耐えられます」との東京電力の PR を信じて、需要家にその旨を伝えてきた者として、福島第一原子力発電所の事故は慚愧に堪えません。

事故原因はどこにあるのでしょうか。原発で最も重要なことは原子炉の連続冷却です。そのため、冷却水注入ポンプ、関連機器と制御盤の運転操作及び電源の確保は絶対に必要です。しかし今回は、津波による冠水で、機器の絶縁が劣化して運転不能となり、原子炉を冷却できませんでした。

機器仕様の選択時にコスト意識が優先したとすれば、今回の事故は「人災」そのものです。つまり、事故原因は、冠水時にも対応可能な、防水仕様で設計施工されていなかったところにあるのです。さらに、9 世紀の貞観地震の再来の可能性を無視し、設備改修の検討もしてこなかったことは、許せません。その責任は東京電力が負うべきものです。そして、監督官庁の原子力安全・保安院の責務はさらに重いのです。

なぜ一般仕様の機器を設置したのかと、当事者の事前調査不足と発想の傲慢さ、管理の貧困さに対し、原発の有用性を認識する者として、悲嘆、落胆の極みにあります。

しかし、「禍福はあざなえる縄の如し」と考え、防水仕様にしておけば難を免れたはずだという点に望みをつなぎ、エネルギー資源の乏しい日本としては、近未来の原油等の枯渇を前に、万全を期して原発建設に再発進せざるを得ないと考えています。